

「陵墓」公開をめぐる成果と未来

一箸墓古墳・伏見城の立入り観察成果報告と「陵墓」の名称一

開催趣旨

陵墓関係16学協会は、これまで「陵墓」の公開と保全を訴え、各種の活動を行ってまいりました。2008年からは「陵墓」への立入り観察が実現し、その後、8年間にわたり計11箇所の立入り観察を実施しています。2010年には「陵墓」のうち、百舌鳥・古市古墳群に属する古墳がユネスコ世界文化遺産に政府推薦するための暫定リストに記載され、今後の世界文化遺産登録が期待されています。「陵墓」は、いま国際的にも地域的にもより注目されつつあります。また、「陵墓」の調査については自治体との連携を検討するような報道もなされています。

こうした取り組みや「陵墓」を取り巻く環境変化の中、新たな問題意識が芽生えてきました。

一つ目は、「陵墓」の保全に関する中で、立入り観察では「陵墓」古墳の墳丘本体が、予想以上に損壊していることが判明する等、保全に対する問題意識がますます高まりました。数百年、千年を超えて「陵墓」が文化財として保全されていくためにはどうすればよいか、真摯な議論が求められます。

二つ目は、「陵墓」の名称です。「陵墓」には、「〇〇天皇陵」「〇〇古墳」「〇〇陵」など、様々な名称をもつものがあります。管理上の名称とは、異なる様々な名づけの可能性が指摘されたことは、「陵墓」の多面的な価値をあらためて知る点で大きな意味がありました。しかしながら、どのような呼称が適切か、あるいは様々な名称を認めあうのか、そもそもこの課題をどのようにとらえていくのかといった点も議論する必要があるでしょう。

本シンポジウムでは、主な「陵墓」立入りの成果を報告するとともに、「陵墓」の公開と保全をめぐる取り組みの中で浮上してきたこれらの論点をとりあげ、検討したいと思います。

日時:2016年8月7日 日曜日 13:00～(開場12:00)

会場:神戸市勤労会館 講習室308

(神戸市中央区雲井通 5-3-1)

参加費:資料代 500円

定員 120名
先着順

スケジュール

13:00～ あいさつ:新納泉(日本考古学協会)

13:05～ 基調報告:王墓立入り観察の成果
一箸墓古墳から野口王墓古墳まで
岸本直文(大阪歴史学会)

14:05～ 関連報告:伏見城一立入り その後
中西裕樹(大阪歴史学会)

15:15～ パネルディスカッション:

「陵墓」の名称と「陵墓」をめぐる現在

趣旨説明:陵墓関係16学協会運営委員会

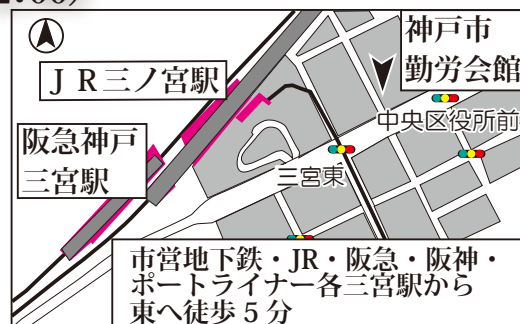
発話 1:山田邦和(古代学協会)

発話 2:後藤真(日本史研究会)

発話 3:高木博志(京都民科歴史部会)

ディスカッション:司会:今尾文昭(古代学研究会)

16:40 終了予定



箸墓古墳立入り観察の様子 (2013年2月)

主催:陵墓関係16学協会・大阪歴史学会・京都民科歴史部会・考古学研究会・古代学協会・古代学研究会・史学会・
地方史研究協議会・奈良歴史研究会・日本考古学協会・日本史研究会・日本文化財科学会・日本歴史学協会・
文化財保存全国協議会・歴史科学協議会・歴史学研究会・歴史教育者協議会

【問い合わせ先】一般社団法人 日本考古学協会

〒132-0035 江戸川区平井 5-15-5 平井駅前協同ビル 4階 tel 03-3618-6608 fax 03-3618-6625